

住めば
愉快だ
宇都宮

UTSUNOMIYA

「地域包括ケアシステム」の構築と 地域の支え合いの推進について



宇都宮市保健福祉部

高齢福祉課

課長 小林 正典

地域包括ケアシステムの背景

今後、高齢化が進むことで、
医療・介護が必要な方や認知症の方など、
支援が必要な方が増えることが
見込まれている



■ 高齢化の現状と将来推計

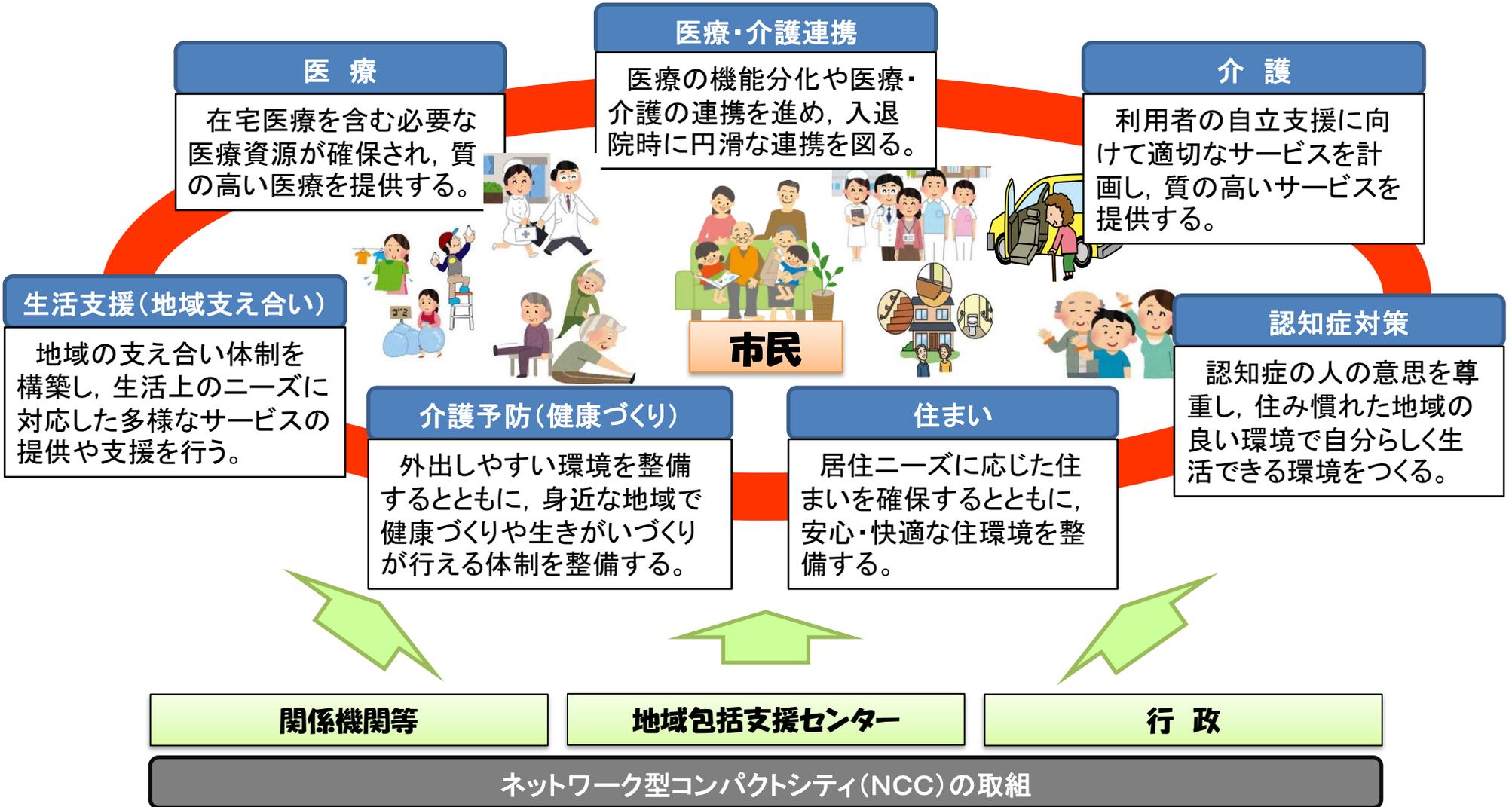
団塊の世代が75歳以上

| | 2015年 | | 2025年 | 増加幅 |
|----------|--------|---|--------|-------|
| 65～74歳人口 | 6.6万人 | ⇒ | 5.9万人 | 約0.9倍 |
| 75歳以上人口 | 5.3万人 | ⇒ | 7.8万人 | 約1.5倍 |
| 要介護等認定者 | 1.9万人 | ⇒ | 2.6万人 | 約1.3倍 |
| 一人暮らし高齢者 | 1.9万世帯 | ⇒ | 2.5万世帯 | 約1.3倍 |
| 認知症高齢者 | 1.0万人 | ⇒ | 1.4万人 | 約1.4倍 |

■地域包括ケアシステムとは何か？

- 高齢者が、介護が必要になっても、
住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを
人生の最期まで続けられるまちをつくること
- 本市では、国が示す5分野（「医療」「介護」
「介護予防」「住まい」「日常生活上の支援」）
に、「医療介護連携」「認知症対策」を加えた
7分野に取り組む

宇都宮市の地域包括ケアシステム



■地域包括ケアシステムの構築に必要な視点

○地域住民

- ・行政などによる「専門的なサービス」の体制整備に加えて、市民一人ひとりによる「健康づくり」や「支え合い」の取組が欠かせない
- ・市民一人ひとりに理解していただき、できることから行動に移してもらうことが最も重要なポイント

■地域包括ケアシステムの構築に必要な視点

○NPOや社会福祉法人

- ・地域に存在する様々な問題・困り事の中には、住民だけでは解決が難しい場合もある。
- ・組織，施設，人材などを備えたNPOや社会福祉法人がそれぞれの強みを活かした取組を行っていくことが期待される。

■ 協議体とは何か？

- 地域の支え合いを具体化するための仕掛け
- 地域の幅広い関係者（自治会長，民生委員，福祉協力員，地域包括支援センターなど）により，高齢者に関する地域の情報共有や，課題解決に向けた検討を行う
- 地域で「できること」に注目することがポイント

宇都宮市における協議体の概要

- ・市域全体を対象とする第1層と、各地域を対象とする第2層
- ・第2層は、地域の関係団体の活動圏域を踏まえ、**連合自治会圏域(39地区)**の設置を目指す

第1層 市全域

第1層コーディネーター

地域の幅広い関係者の理解・協力が重要

協議体

(社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会)

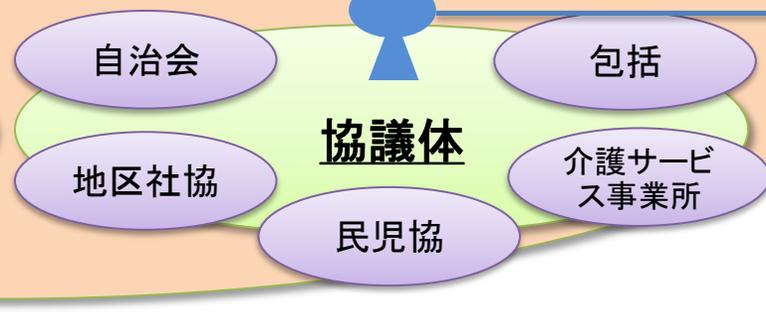
第2層コーディネーター

第2層 連合自治会圏域

連合自治会圏域

協議体

協議体



本市の第2層協議体の設置状況



第2層協議体設置済: 15地区

- ・ 清原
- ・ 緑が丘
- ・ 西原
- ・ 東
- ・ 五代若松原
- ・ 石井
- ・ 今泉
- ・ 明保
- ・ 姿川(北部・南部)
- ・ 国本
- ・ 陽東
- ・ 城山
- ・ 宝木
- ・ 泉が丘
- ・ 宮の原

※この他, 勉強会や準備委員会を開催するなど, 協議体の準備をスタートしている地区もあります。

御清聴ありがとうございました